



照屋 林賢 *Rinken Teruya*

Profile

沖縄県コザ市生まれ。祖父・林山と父・林助はともに沖縄を代表する音楽家。実家が三線・レコード店という音楽に囲まれた環境に育つ。1967年、西洋の音楽理論を勉強するために上京。「沖縄音楽をベースにしたオリジナルで新しい音楽づくり」を目指し帰郷。沖縄固有のリズムとメロディにこだわりながらも貪欲に新しい発想を取り入れ、りんけんサウンドの創造を続けている。りんけんバンドのリーダーであり、全てのプロデュースを手懸けている。

エイサーという踊りは、
基本的に自由な舞踏である。
手の平を返そうが、
足をひし形にあげようが、
かかとを砂地に這わせようが、
そんなことはどうでもいい。
問題は、踊り手が感じる
楽器のリズムを細胞が吸収して、
五体が離れ離れになることだ。
島の子供たちは、
音に同化するのがうまい。
一人一人が音符になり、
全体が譜面になる。
踊りというのは、
いかに本能のままに
無になるかなのだ。